

青山 勳

## 「真の豊かさ」とは



真の「豊かさ」とは？  
真の「しあわせ」とは？  
この命題はこれまでも多くの人に語られてきました。その人の価値観によって大きくは2極に分かれる問題です。それは、「物質的豊かさ」と「精神的豊かさ」です。

前者の「物質的豊かさ」は、戦後、物資の乏しく、貧しい生活から、多くの人々が逃れたいと求めてきた「豊かさ」です。戦後の著しい復興、科学技術の進展はわが国に大きな「物質的豊かさ」をもたらせました。これは科学技術の進む限り、どこまでも尽きることのない欲求として人間は持ち続けるでしょう。人間だけが追求する欲求といえるでしょう。今、私たちは「物質的豊かさ」を得た裏側で、その負の遺産として、地球温暖化を始め、人類の生存にも関わる様々な環境問題に直面しています。このことは大変大きな問題として、すべての人が考えなければならない問題です。ある国では、わずかなお金で一本の井

戸を掘り、水を与えられることで、大きな喜びと幸せを感じることができると人々がおられます。あるところでは、勉強したくとも、施設も先生もいらず、1年に1回循環してやってくる移動学校を待ち望んでいる子供たちにとっては、そのときほど大きな喜びを感じている時はないのではないかと思います。「物質的豊かさ」は状況によって、わずかなことで幸せを感じることができそうですが、限らない質と量への欲求につながっていきます。

また、豊かさとは、お金さえあれば、何でもできると思う人もいますでしょう。しかし普通のまじめな人は、仕事せずに趣味三昧の生活に幸せを、真の豊かさを感じることはできるでしょうか。決して経済的に豊かでなくとも、家族が健康で、楽しく思える生活が送れることに幸せを感じる人も多いと思います。このような心の幸せを感じる人は、同時に心に「豊かさ」を感じて生活していると思います。これが「精神的豊かさ」です。この「精神的豊かさ」にはまた質の異なるものがあります。例えば自分の好きな音楽や演劇を鑑賞し、静かに読書を楽しむこと、このような文化的な時を享受できることに、「豊かさ」を感じる人もいます。

ヨーロッパ人やアメリカ人は働いて、お金を貯め、長期の休暇を取って、家族一緒に、一カ所でのんびりと時を過ごすことに「豊かさ」を満喫する人たちがいます。私たち多くの日本人は、お盆、お正月の数日間の休暇を、満員の新幹線に乗り、また渋滞する高速道路を走って帰省する。同じ休暇を過ごすにも何か「豊かさ」の質に違いがあることを感じます。

結局、真の「豊かさ」とは、これという定義があるわけではなく、一人一人の価値観や心の持ち方にあります。言い換えれば自分で満足できる「形」を見つけ、実践できるところに真の「豊かさ」を感じることはできるのです。「豊かさ」は他人に強制はできないし、同時に自分の「豊かさ」を他人に押しつけることもできないのです。

ここで注意すべきことは、自分の「豊かさ」を享受するために他人に迷惑をかけてはいけないことです。また「豊かさ」は一人一人異なるとはいえ、人間共通に必要な最低限の「豊かさ」があることを忘れてはならないし、これは文化国家として、国家が守らなければならないこともあるということです。

## 青山 勳氏

1942年生まれ。京都市出身。岡山大学研究推進本部・副本部長。(財)おかやま環境ネットワーク理事長。